

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業名	民生委員児童委員活動推進事業			会計	款	項	目	大	小
				01	03	01	01	04	01
政策	O4	4節 誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	社会福祉課					
施策	4-5	地域で支える福祉のまちづくり	主管課長	豊田 武彦					

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	民生委員児童委員	意図	県へ民生委員児童委員候補者の推薦を行い、またその活動費を支給し、民生委員児童委員の充実・支援をすることにより、以って地域福祉の向上を図る。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>民生委員児童委員候補者を県へ推薦する民生委員推薦会の開催。</li> <li>民生委員児童委員の費用弁償的な活動費の支給。</li> </ul>			
事業開始から現在までの状況変化	昭和3年から全国に民生委員制度がある。市区町村、都道府県、指定都市、全国といった民生委員児童委員のネットワークをつくり、情報の交換をおこなっている。近年は、民生委員・児童委員のなり手が見つからず欠員区域がある。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
	①	まちぐるみの福祉ができていると思う市民の割合	20.50	20.60	19.50	%	↓↓↓	まちづくり達成度アンケートの「できている、どちらかといえばできている」回答により算定
②	民生委員児童委員充足率	96	93	96	%	↑↑↑	委嘱人数÷定数×100	
③								
④								
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果						目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ・民生委員児童委員の高齢化により、病気や死亡等で急遽辞任する委員が数名いた。欠員に対しては自治会に呼びかけ後任者を選出していただき、欠員をなくすよう努力してきている。長期欠員している地区については、呼びかけはしているが、後任者が見つからない状況である。		
事務事業のコスト		平成27年度	平成28年度	平成29年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)		8,075,616	8,264,488	9,719,228				
事業費(b)(円)		7,806,936	7,774,568	9,238,008				
うち一般財源		7,806,936	7,774,568	9,238,008				
職員給与と費(c)(円)		268,680	489,920	481,220				
人役・職員(人)		0.02	0.06	0.06				
人役・再任用(人)		0.03	0.02	0.02				
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H29)の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>民生委員児童委員協議会の協力を得ながら引き続き欠員解消に努める。</li> </ul>	③取組の課題	民生委員の事務量が増加しており、負担が大きいイメージが先行し、なり手が見つからず、欠員となっている地区がある。
②今年度(H29)に実施した取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>民生委員児童委員協議会の協力のもと、欠員地区解消に努めた。</li> </ul>	④今後(H30以降)の改善計画	今後も民生委員児童委員協議会の協力のもと自治会への助言やホームページで呼びかけを行うなどし、欠員地区解消に努める。